

がん免疫療法の 歴史と将来展望

～珠玖洋先生を偲んで～

参加費
無料



申込
方法

健康医療開発機構の
ホームページ
<https://www.npotrnetworks.com/>
よりお申込みください。

申込
〆切

2023年3月4日（土）

日時

Part1 2023年 **3月5日** (日) 午後 13時～17時

Part2 2023年 **3月12日** (日) 午後 13時～17時

会場

順天堂大学有山登メモリアルホール及び
ZOOM Webinarによるハイブリット開催
https://www.juntendo.ac.jp/university/research/buiding_A_intro.html

対象 一般

Part1

「がん免疫療法の歩み」

開会の辞

清水 昭先生

(川越リハビリテーション病院・院長、健康医療開発機構・副理事長)

講演1

「珠玖洋先生を偲んで」

上田龍三先生

(名古屋大学大学院医学系研究科・特任教授)

講演2

「免疫制御の新戦略」

奥村 康先生

(順天堂大学大学院医学研究科アトピー疾患研究センター長)

講演3

「がん免疫療法の研究開発にける思い：
これまでのご指導の先に目指す未来」

玉田耕治先生

(山口大学大学院医学系研究科・教授)

講演4

「がんと免疫の相互作用の理解と
免疫療法の開発：歴史と未来」

河上 裕先生

(国際医療福祉大学医学部・教授)

総合討論

Part2

「珠玖洋先生と歩んだがん免疫研究の歴史と将来展望」

講演1

「腫瘍不均一性を克服するがん免疫療法の開発
～珠玖洋先生と始めたがん免疫療法の未来地図～」

池田裕明先生

(長崎大学医学部・教授)

講演2

「複合的がん免疫療法の開発～珠玖洋先生の
VISIONとその将来展望～」

宮原慶裕先生

(三重大学大学院医学系研究科・教授)

講演3

「活性酸素が拓く生体防御機能」

鵜殿平一郎先生

(岡山大学学術研究院医歯薬学域免疫学分野・教授)

講演4

「がん微小環境の免疫抑制克服による
新規がん免疫療法の開発～珠玖先生から
学んだmechanism-oriented TRの実践～」

西川博嘉先生

(名古屋大学大学院医学系研究科・教授、国立がん研究センター研究所・分野長)

総合討論

閉会の辞

奥村 康先生

(順天堂大学大学院医学研究科アトピー疾患研究センター長)

主催：特定非営利活動法人健康医療開発機構、順天堂大学アトピー疾患研究センター／協賛：(株)アインホールディングス





奥村 康

千葉大学・医、大学院 卒業後（昭和48年）、米
国スタンフォード大学・医 留学、東京大学 免
疫学講師、順天堂大学 免疫学教授、同 医学部
長を経て、現在、アトピー疾患研究センター長。
ベルツ賞、高松宮奨励賞、安田医学賞、ISI引用
最高栄誉賞、日本医師会 医学賞受賞。



上田 龍三

1969年名古屋大学医学部卒。1972年名大第一内
科にて、白血病の化学療法、骨髄移植療法の臨床
研究。1972年NYスローン・ケタリング癌研究所留
学。Dr.オールド研究室にて先輩の高橋利忠（1965
年卒）、珠玖洋（1967年卒）の両先生に腫瘍免疫の
薫陶を受け、ヒト腫瘍抗原の探索研究。1980年帰
国後、愛知県がんセンター及び名古屋市立大学腫
瘍免疫内科にて、モノクローナル抗体の作製・解析
及び分子標的治療研究に従事。2000年から企業と
の共同研究で、成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）
の治療抗体モガリズマブ（抗CCR4抗体）のTR研
究により、2012年日本初の抗がん治療抗体薬の上市に成功。現在、ATL治
癒を目指したCCR4-CAR-T療法、抗CCR抗体によるTreg除去がん免疫療法
やがん免疫療法のマーカー開発などの研究を続けている。名古屋市立大学名
誉教授、愛知医科大学名誉教授。2009吉田富三賞（日本癌学会）、2012 高
松宮妃記念癌研究基金学術賞、2017紫綬褒章受章（春）。



玉田 耕治

九州大学医学部を卒業後、がん免疫学の研究にて
医学博士を取得。その後米国にて13年間にわたり、
最先端のがん免疫療法の研究と開発に従事。Mayo Clinic 免疫学にて研鑽を積み、その後Johns
Hopkins大学にてAssistant Professorとして独立。
さらに、Maryland州立大学がんセンターにて、が
ん免疫治療プログラムの基礎研究部門リーダーを
務めた。2011年より現職。2016年より東京大学
医科学研究所 委嘱教授兼任。



河上 裕

1980年慶應義塾大医学部卒・内科研修、国立大蔵病
院、慶大血液感染リウマチ内科、85年から南フロリダ
大免疫学、カリフォルニア工科大生物、NIH国立がん
研究所を経て、97年慶應義塾大医学部先端医学研究
所 細胞情報研究部門教授、2005年同研究所長、
15年慶應義塾大医学研究科委員長、17年同医学部
長補佐、19年国際医療福祉大医学部長 免疫学教
授、Thomson ISI highly cited researcher (2005)、
SGH特別賞（2005）、日本免疫学会ヒト免疫研究賞
（2018）、日本癌学会長與又郎賞（2020）など受賞。
研究テーマ：がん免疫病態の解明と制御法の開発。



池田 裕明

1983年久留米大学附設高等学校卒業。1990年
長崎大学医学部卒業し、長崎大学第2内科に入局。
1992年より長崎大学大学院博士課程にて珠玖洋
教授の指導のもとでがん免疫の研究を開始する。
1999年より2004年まで米国ワシントン大学医
学部Robert D Schreiber博士のもとに留学しがん
免疫エディティングの研究に携わる。2004年に
帰国後、再び珠玖洋先生のもとでがん免疫療法の
臨床開発を開始し、これまでにTCR-T細胞療法、
CAR-T細胞療法等の遺伝子改変T細胞輸注療法の
臨床開発に取り組んできた。2016年より珠玖洋
先生が初代教授であった、長崎大学医学部腫瘍医
学教室教授を拝命し現在に至る。2013年「免疫細胞療法培養ガイドライ
ン」に日本がん免疫学会を代表し委員として参加。2019年3月厚生労働
省発出「がん免疫療法開発のガイダンス」の策定に委員として参加。



宮原 慶裕

平成5年三重大学医学部卒業後、第2内科（現
血液・腫瘍内科）入局。翌年に珠玖洋先生が教授
として第2内科に赴任される。珠玖研究室で学位
取得後にアメリカテキサス州ヒューストンBaylor
College of Medicine、オハイオ州トレドToledo
Universityに留学。帰国後、珠玖先生が主宰され
ていた三重大学大学院医学系研究科がんワクチ
ン講座に講師として着任。以降、珠玖先生が主導
されてきたがん免疫療法開発での免疫応答モニ
タリングに従事。2021年8月より産学連携講座
個別化がん免疫治療学講座の同職。



鵜殿 平一郎

1985年長崎大学医学部卒業 医学部附属病院第
二内科研修医、1990年長崎大学大学院博士課程
修了（珠玖洋教授研究室）、1991年米国ニュー
ヨーク・マウントサイナイ医科大学留学、1993
年岡山大学医学部助手、1998年長崎大学医学部
講師、助教教授、2003年（独）理化学研究所横浜
RCMI チームリーダー、2011年岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科 教授、2021年岡山大学学術
研究院医歯薬学域 教授 現在に至る。



西川 博嘉

1995年三重大学医学部卒業。三重大学医学部附
属病院等にて臨床研修の後、1998年三重大学大
学院医学系研究科博士課程内科学専攻入学（指導
教官 珠玖 洋教授）。2002年同 修了（医学博
士）。2003年Memorial Sloan Kettering Cancer
Center リサーチフェロー、2006年三重大学大
学院医学系研究科病態解明医学講座 講師、2010年
大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免
疫学 特任准教授、2012年Roswell Park Cancer
Institute, Adjunct Associate Professor（兼任）を
経て、2015年より国立がん研究センター 研究所
腫瘍免疫研究分野／先端医療開発センター 免疫トランスレーショナルリ
サーチ分野 分野長。2016年より名古屋大学大学院医学系研究科 分子細
胞免疫学 教授をクロスアポイントメントで兼任。近年はがん微小環境
における免疫抑制ネットワークの本態解明とそれらを標的とした新規が
ん免疫療法の開発を行っている。



アクセス
JR御茶ノ水駅 徒歩7分
東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 徒歩7分
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 徒歩9分



薬剤師がいる。
時代の変化に挑んでいる。

